

精神科の木村です。2011年1月より、アルコール依存症の研究のため、米国にある National Institute on Alcohol Abuse and Alcoholism

(NIAAA)に留学しています。NIAAAは、国立衛生研究所(NIH)のアルコール部門の研究所で、米国でのアルコールに関する研究予算を配分する他、内部でも様々な研究を行っています。私が所属しているのは、その中の Laboratory of Neurogenetics (LNG) というラ



ボで、アルコール依存を遺伝子の面から研究す

る部門です。ですが、研究分野は、アルコールのみに限らず、ストレス、統合失調症、他の薬物依存など様々な研究をしている人がいます。NIHのメインキャンパスはメリーランド州のベセスダにあります、このラボは少し離れた



ロックビルという場所にあります。ボスの Dr. Goldmanをはじめ、スタッフ、ポスドク、学生など総勢20名ほどがいる比較的規模の大きなラボです。メンバーは、みんな優秀でモチベーションも高い人ばかりで、大変刺激を受けます。米国の中心的な研究機関だけあり、ラボの設備も大変充実しており、Sorexと SOLiD の2台の次世代シーケンサーをはじめとして、色々な実験機器が使用可能です。他の研究機関からの来訪者も多く、しばしば興味深いセミナーが開催されています。週に1回ラボミーティングがあり、自分の研究の状況を報告する他、持ち回りで最近の論文や自分の研究について1時間程度のレクチャーを行うことになっています。学生もプレゼンが上手で感心させられますが、自分の番が回ってくる時は結構なプレッシャーではありません。毎回活発な議論が繰り広げられますが、英語力も知識も追いつかないので、正直なところ何を言っているかチンプンカンプンで、なかなかディスカッションにはついていけません。



日常生活はとても快適です。首都ワシントンから地下鉄で20分程度の場所ですが、周囲には自然が多く、リフレッシュできます。英語は相変わらず上達せず不便なことが多いので、



夜に近くにある大学の ESL クラスに通いました。日常の出来事が一つ一つ勉強になるので、大変貴重な経験をさせていただき、院長、副院長をはじめとして久里浜アルコール症センターの皆様には感謝しております。

こちらに来たときに、Dr. Goldman に言われたことがあります。「失敗を恐れるな。」と。これからも失敗を恐れず、色々なことにチャレンジしていきたいと思います。